特集・台湾

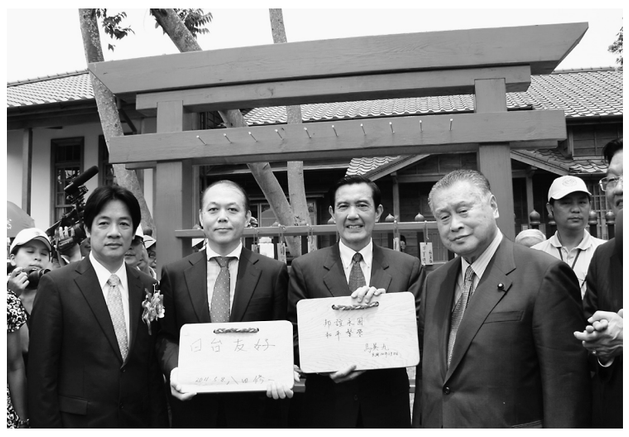
八田記念公園が台南にオープン

日台の新たな架け橋に 教育旅行への活用も期待

日本統治時代の台湾で技師として水利事業に尽力し、台湾で最も尊敬されている日本人の1人、八田與一（はった・よいち）氏の功績を称える「八田與一記念公園」が8日、台南郊外に開園した。八田氏らの宿舎などを復元したほか、資料を展示する記念館を建設。5月8日は八田氏の命日で、完成式典も同日に開かれ、日本から関係者が駆けつけたほか、台湾の馬英九総統が出席し祝いの言葉を送った。日台の歴史を学ぶ新スポットとして日本からの教育旅行にも活用が期待される。【江口英一】

式典に馬総統、森元首相

記念公園は、八田氏が指揮をとって建設した烏山頭ダム（台南市菅田区）を中心とする広さ5・1㌶のエリアで西拉雅（シラヤ）風景区の中にある。馬総統の指示により、2年間、1億2900万台湾元（約3億9千万円）をかけて整備した。



完成式典に参加した（写真左から）賴清德台南市市長、八田與一氏の孫である八田修一氏、馬英九総統、森喜朗元首相。復元完成した八田邸の前で

八田氏らの宿舎だった日本家屋4棟を改修・復元したほか、八田氏について紹介された記事や書籍を展示し、ドキュメンタリーフィルムの上映も行う「八田技師記念館」などが完成した。台湾人が戦前の日本人の業績と徳の高さを称えている施設であり、海外教育旅行での訪問先としても今後注目される。

当時の幹部職員用宿舎のうち4棟を改修・復元した。修復指導のため日本から招聘された日本人技術者たちが台湾人の若い建築職人らと共同で作業にあたった

八田記念公園建設プロジェクトの概要を説明する台湾交通部観光局の賴瑟珍局長

開園記念式典には、台湾から馬総統や賴瑟珍観光局長、賴清德台南市長、閣僚らが参加。日本からは、八田氏の出身地である石川県選出の森喜朗元首相ら超党派でつくる「日華議員懇談会」の国会議員25人、山野之義金沢市長、八田氏の孫の八田修一氏らが出席した。

日本の旅行業界からは、柴田耕介日本旅行業協会理事長（＝日台観光促進協会会長）、越智良典ユナイテッドツアーズ社長（＝同理事長）、古澤徹JTBグローバル事業本部国際部長（＝同理事）らが出席した。日台合わせて500人以上が参加し、盛大なセレモニーとなった。

記念式典で八田修一氏は「祖父が計画、建設したダムと水路を台湾の方々が大切に守り、受け継いできてくれたからこそ今日がある。そのことに感謝申しあげたい」とあいさつした。

式典では水車に水を注ぐ趣向で開園を祝った

馬総統は「八田與一氏の献身によりこの不毛の地が一大穀倉地帯に変わった。かつて日本が台湾を統治した50年間に重要なインフラを残してくれたことは事実だ」と強調。その上で「記念公園を新しい架け橋とし、台湾と日本が未来志向で手を携えて協力していけると信じている」と述べた。

八田氏の銅像の近くには、ダム建設工事で資材などを運んだ当時の蒸気機関車が展示されている

石川県の県紙「北国新聞」が「パッテンライの家に家具を贈ろう」キャンペーンを展開。寄贈された169点の家具、什器を復元した4棟の日本家屋内に展示している。パッテンライ（八田来）とは、「八田がやって来た」という意味

八田記念公園から約1㌔の丘の上にある八田與一氏の銅像と墓地。烏山頭ダムを見下ろしている

■八田與一（はったよいち）　1886年、現在の石川県金沢市で生まれる。東京帝大（東大）土木科を卒業後、24歳で日本統治時代の台湾に渡り、台湾総督府の技師として台湾各地に農業用水、ダムを建設した。

1920（大正9）年からは台南郊外で烏山頭ダムとその水を使った総延長1万6千キロメートルにおよぶ農業用水網の建設に着手。10年の歳月をかけて完成させた。これにより雨の少ない砂漠のような気候で、もともと農業に適さなかった嘉南平原は、台湾一の穀倉地帯となった。烏山頭ダムは当時東南アジア最大の貯水量を誇り、世界で3番目の規模のダムだった。

また、工事期間中に台湾人と日本人を区別せずに接したこと、工事関係者が家族と住める宿舎や共同浴場、商店、テニスコート、学校、病院などを完備した人口2千人の町をつくったことなどから台湾人からも慕われた。同ダムの恩恵を受けた地元農民の間では「八田公（パッテンコン）」として神格化されている。八田氏の業績は学校の教科書にも登場し、台湾でも最も尊敬されている日本人の1人だ。

太平洋戦争中の1942年5月8日、陸軍に徴用されフィリピンに向かう途中、乗っていた船が米潜水艦に撃沈され没した。1946年に嘉南の農民たちによって八田氏の墓が建てられ、毎年5月8日の命日には墓前祭が開かれている。

八田氏の残した烏山頭ダムは、コンクリートをほとんど使わずに、粘土、砂、小石で建設するセミ・ハイドリックフィル工法という当時日本でも前例のない手法で造られている。ダム内に土砂が堆積しにくく、自然の景観もこわさない「エコダム」として近年新たに脚光を浴びている。

半生が学習まんがに

日本、台湾で発売

学習まんが「八田與一 台湾に東洋一のダムを建設した日本人の物語」（160頁、税込1155円）が27日、小学館から発売された。台湾では翻訳版＝写真＝が、八田氏の命日で記念公園の開園日の8日に南一書局から発売された。定価250元（約750円）のうち20元は東日本大震災の義援金として同社が拠出する。

台南とその周辺エリア

日本にゆかりのある観光スポットが点在

台南、その北側の台中などのエリアには、日本の歴史や文化とのゆかりを感じさせる観光スポットが数多くある。

【台南】

台北から台湾高速鉄道（新幹線）で約2時間南下すると台南。台南駅から西へ徒歩10分で古跡赤崁楼（せっかんろう）に着く。1661年に鄭成功が台湾に上陸。当時台南一帯を支配していたオランダ軍を駆逐し、この建物を台湾全島の最高行政機関とした。台湾で英雄とされている鄭成功は、長崎の平戸で中国人の父と日本人の母の間に生まれた明の軍人。近松門左衛門作の人形浄瑠璃「国性爺合戦」の題材にもなった人物だ。

また、台南の市街地では、毎週、水、土、日曜の夜に「花園夜市」が開かれる。無数の屋台が並ぶ様子は巨大な縁日のようだ。

【西拉雅風景区】

西拉雅（シラヤ）風景区にある八田與一氏が建設の指揮をとった烏山頭（うざんとう）ダムへは台南からバスで北に1時間。さらに同風景区内を1時間北上すると、日本統治時代から〝泥温泉〟として有名だった「関子嶺（かんしれい）温泉」に着く。

関子嶺温泉では宿泊だけでなく、日帰り入浴も楽しめる。温泉街の土産物店では温泉卵や泥湯の素（乾燥した泥）が売られており、日本のひなびた温泉地をほうふつとさせる。

【日月潭風景区】

日月潭（にちげつたん）風景区へは台中市内から南西へバスで2時間。台湾の代表的な景勝地の1つで、日本人にも人気だ。周囲約33キロメートルという台湾最大の淡水湖。湖面は真珠のように輝き、湖水は青く澄む。周囲の山々が湖面に映り、幻想的な風景を醸す。

所用時間30分の遊覧船と山の上から湖を一望できるロープウェーは特に人気が高い。また、湖を周るサイクリングロードも完備。2カ所の自転車レンタル場のほかに台湾が誇る世界最大の自転車メーカー「ジャイアント」のサービスステーションもある。

湖畔のリゾートホテル「日月潭雲品酒店（フローデシンホテル）」は、温泉大浴場と〝和モダン〟様式の和室を備えており、台湾の富裕層に人気だ。

台南最古の建築物「赤崁楼」。この他にも台南には200超の寺廟や史跡が点在する

食事、衣類などの屋台がびっしりと建ち並ぶ台南市の「花園夜市」

関子嶺温泉はどろりとした灰色の“泥温泉”。泉源温度76度、PH8.2の弱アルカリ性

台湾温泉観光協会発行の「天然温泉認証」。金属プレートに住所、引湯方式、泉源温度、PH値、泉質などが刻印されている

日月潭雲品酒店の10畳和室。客室風呂も天然温泉だ

日月潭のクルーザー埠頭とホテル群

日本人のロングステイ誘致―埔里

シニア層を中心として 1週間から6ヵ月滞在

震災被災者の無料も検討

埔里（プーリー）は日月潭風景区の北、バスで30分の距離に位置する人口9万人の町。良質な湧水で知られ、紹興酒や造紙工芸、台湾一の花の産地としても有名だ。この風光明媚な町は、馬文君・前鎮長（鎮長は日本では市長に相当、現在は国会議員）の号令のもと、9年前から日本人向けロングステイプログラムの開発、誘致に取り組んできた。

実際の誘致は6年前から。現在では定年退職後のシニア層を中心として毎月20～100人の日本人がこの地で1週間から6カ月間のロングステイを満喫している。

握手をかわす柴田会長（写真左）と馬国会議員

日台観光促進協会の柴田耕介会長（＝日本旅行業協会理事長）らは9日、埔里を訪問。馬国会議員（前鎮長）、周義雄鎮長らと日本人向けロングステイプログラムのさらなる拡大に向けて会談した。

会談の中で馬議員は、東日本大震災の被災者を対象とした1カ月間の無料滞在プログラムを準備中であることを明かした。現時点で9軒の宿泊施設が受け入れを表明しているという。

また、1週間以上のロングステイ客に対して、宿泊料金を最大70％、レストラン料金を30％割り引く特別ロングステイプログラムも近々に発表し、日本人ロングステイの拡大を図りたい考えだ。

周鎮長は「埔里には日本語ができるボランティアスタッフが80人いる。日本の病院と同等の設備を持ち日本語を話す医者がいる病院も2カ所ある」と話し、安心して長期滞在してほしいと強調した。

被災者向け無料プログラムについて馬議員は「1999年の台湾中部大地震で被災した私たちに日本はさまざまな支援をしてくれた。今度はこちらからお返しをする番だ」と述べた。これに対し柴田会長は感謝の気持ちを述べるとともに、日本の旅行業界がロングステイプログラムの推進に積極的に協力していくことを約束した。

Taiwan
THE HEART OF ASIA

台湾観光局
http://jp.taiwan.net.tw

2010-2011 台日観光交流年
TAIWAN-JAPAN Tourism Exchange Year

台湾観光協会

東京事務所
〒105―0003
東京都港区西新橋1丁目5―8川手ビル3F
電話03・3501・3591　FAX03・3501・3586

大阪事務所
〒530―0047
大阪府大阪市北区西天満4―14―3―6F
電話06・6316・7491　FAX06・6316・7398

〝百年夫婦円満〟特典プレゼント
特別企画が始動

台湾観光局は、100年にちなみ、夫婦の年齢が合計で100歳を超える旅行者（または夫婦を含む1組の合計年齢が100歳以上）を対象に8,000円相当（100米ドル）のプレゼント特典を用意。特典は協賛旅行会社の企画するツアーに申し込んだ方が対象。ツアーは年末までに順次案内する。

ウェルカムプレゼント
キャンペーン
実施中

台湾観光局は、台湾を訪れる日本人旅行者に、50元チャージ済みの「台北MRT悠遊カード」などをプレゼント中。

◇特別企画、キャンペーンの詳細は、台湾観光協会まで